

令和元年東日本台風による被害と 課題について

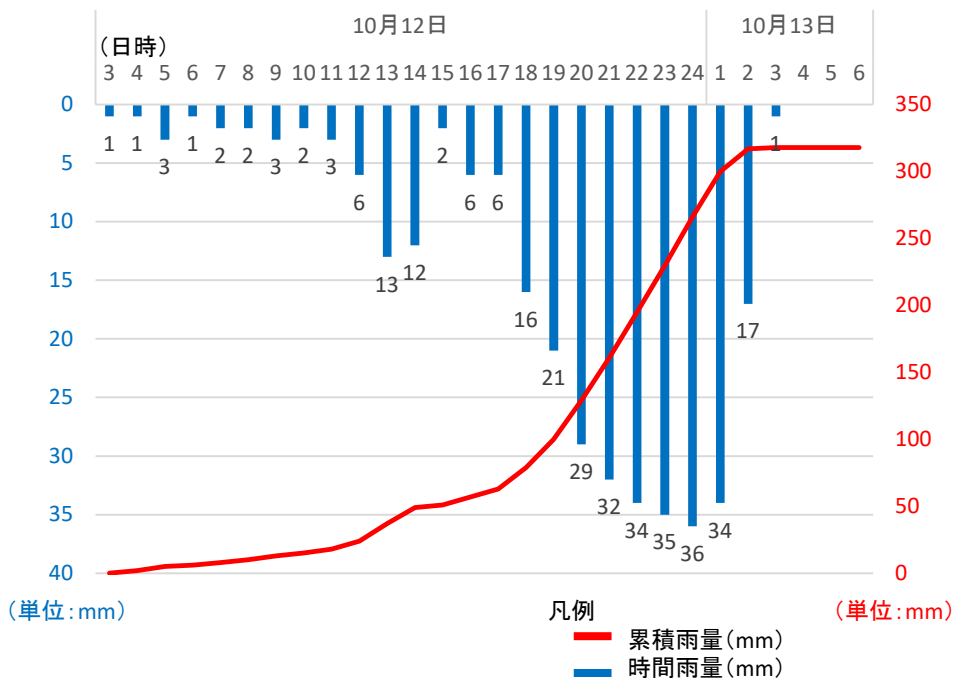
1 東日本台風の降雨状況

(1) 気象概況

令和元年10月12日から13日にかけて宮城県を襲った台風19号により、荒川周辺では、計画雨量205mm/日を超える総雨量317mm（宮城県大河原雨量観測所）を記録した。

※24時間雨量で1/30～1/40降雨確率

宮城県設置の大河原雨量観測所の累計雨量
(令和元年10月12日3:00～10月13日2:00)



(2) 被害状況

荒川地区において床上・床下浸水210戸に及ぶ浸水被害が発生した。



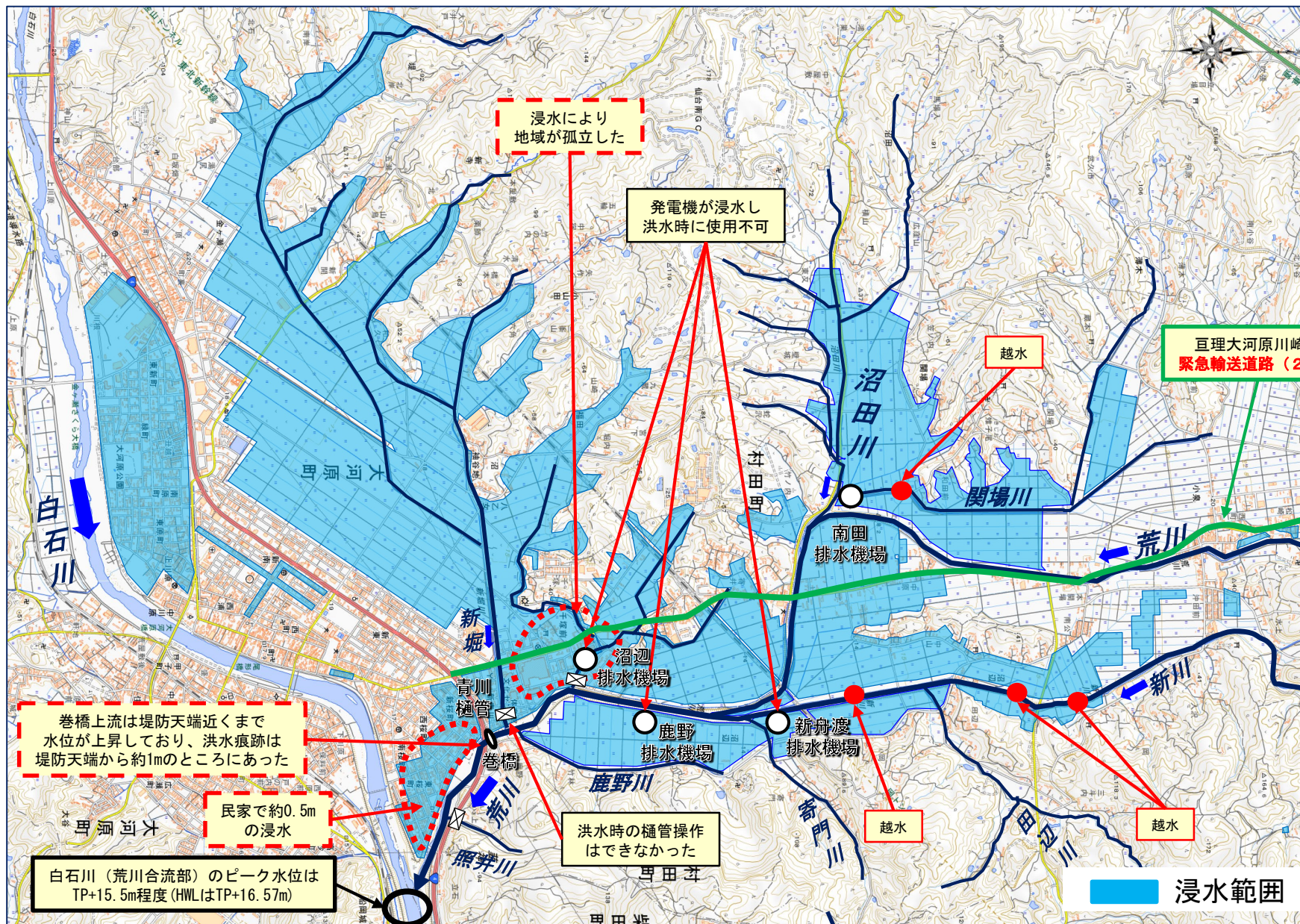
村田町新小谷地地区
令和元年10月13日撮影時間不明(村田町提供)



村田町沼辺地区 令和元年10月13日AM6:00頃撮影(村田町提供)

2 浸水被害痕跡調査結果

(令和元年12月23日 県・大河原町・村田町合同調査による)



※浸水範囲、越水箇所については大河原町、村田町提供資料による

3 荒川流域における課題

浸水被害痕跡調査により課題を共有し、対応案を検討する。

①河川等における課題

- 一部堤防高が低い箇所があり、越水した
- 河川狭窄部(巻橋)が流下阻害の要因となった

②荒川流域における課題

- 霞堤は機能したが、浸水により地域が孤立した
- 内水排除ポンプの発電機が浸水し使用不可となった
- 適切に排水樋管が操作できず逆流した
- 内水・外水の氾濫があった

③ソフト対策の普及における課題

- 浸水により地域が孤立し、逃げ遅れた住民がいた

上記を踏まえ、各主体が課題を共有し、役割分担のもと流域治水を推進



荒川流域の「流域治水協議会」により検討